

授業科目名: 学外実践実習	単位数 2 単位	担当教員名: 専任教員 担当形態: 単独
配当年次: 1 年次後期 2 年次前期・2 年次後期	授業形態: 実習	開講形態: 各大学独自開講
授業のテーマ及び到達目標: 一般学生を対象とし、学外で実施するインターンシップを主体とする演習である。主な目標は、実社会に通用する高度な研究能力を持つ博士人材としての基盤を形成することである。具体的には、実社会に通用する、普遍的かつ実践的知識を基盤とする国際的センス、国際通用性のある実践的理論・スキルやコミュニケーション力を向上させ、実践できることを目指す。		
授業の概要: 国内外の機関で実施されている業務の内容及び手法について受入担当者の指導を受けながら研修する。期間は 80 時間以上とする。主なインターンシップ先は、国際機関、省庁、NPO/NGO を含む公的組織(研究機関含む)や開発コンサルタンツ、多国籍メーカーなどの民間企業である。		
授業計画: 国内外の機関において 80 時間以上以上の研修を受け、実際の現場における業務、研究などを体験することを通じ、国際通用性のある学識、技術の応用方法を学び、現場での業務に参加することで現場におけるコミュニケーション力、技術、思考能力を研鑽するとともに、専門家としての責任を学ぶ。以上を通して、社会に出て即戦力となる、高度な研究能力を持つ博士としての基盤を形成する。 インターンシップは学生と主指導教員が綿密に協議して計画する。学生自身の専門や将来の希望進路を考慮し、副指導教員等から助言・支援を受けながら候補先を選択し、先方への依頼・交渉を行い、主指導教員の確認のうえ受入時期・場所・研修内容等を決定する。インターンシップの主な候補先は以下のとおりである。 東外大:JETRO、デュボン 農工大:FAO、三祐コンサルタンツ 電通大:日立、富士通、NTT 研究所 インターンシップ実施前に、受け入れ担当者と相談しながら計画書案(A4・2枚程度)を策定し、主指導教員との協議により最終計画書を確定する。 インターンシップ終了後、研修内容及び成果を取りまとめた報告書(A4・5枚程度)を主指導教員に提出する。また、「サステナビリティ研究先端演習Ⅱ～Ⅳ」の文理協働コロキウムにおいて、博士論文研究の進捗状況等とともに、インターンシップの研修内容及び成果を報告することが求められる。 各指導教員の専門分野は以下のとおりである。 【東京外国語大学】 (武内進一)地域動態論、アフリカ研究、国際関係論、紛争 (中山智香子)グローバルスタディーズ、社会経済学、社会経済思想、経済史、経済人類学 (李孝徳)カルチュラル・スタディーズ、表象文化論、ポストコロニアル理論 【東京農工大学】 (千年篤)国際農業開発、農業発展論、農業経済学、所得格差、貧困		

<p>(野村義宏)生物資源機能化学、コラーゲン、ケラチン、機能性食品</p> <p>(香取浩子)エネルギー科学、磁性体における相転移現象、局在スピン系磁性、遍歴電子系磁性</p> <p>(三沢和彦)生体医用システム、超高速フォトニクス、超高速時間分解分光、非線形光学</p> <p>【電気通信大学】</p> <p>(山本佳世子)社会システム工学、空間情報科学、都市・地域計画学、GIS ビッグデータ、環境・防災</p> <p>(橋山智訓)知能情報学、ソフトコンピューティング、ヒューマンインタフェース・インタラクション</p> <p>(横井浩史)計測・制御、節電義手、節電センサー、サイバネティクス、臨床応用</p> <p>(岡田佳子)光工学、光エレクトロニクス、バイオエレクトロニクス、ナノフォトニクス</p>
<p>テキスト:特になし</p>
<p>参考書・参考資料等:特になし</p>
<p>学生に対する評価:インターンシップ準備等取り組み姿勢(計画書等)、達成成果(報告書等)等により総合的に評価する。</p>